



木住野 智行  
きし の ともゆき

日の出町郷土芸能の保存等における町の考えについて

Q 保存等についての考えは。

A 町に存在する伝統文化を大切に継承し、その維持・発展のために支援していく。

Q 下平井の鳳凰の舞への町からの支援は。

A ユネスコ文化遺産「風流踊」に登録されたことは町の誇りであり、PR活動を継続し、観光面の効果も含めて大切に支援していく。

日の出町サービス総合センターの今後の方向性について

Q 行政改革における見直しについての検討内容は。

A 複数の重要な観光施設を受託しており、今後の施設運営への影響もあることから町としての考え方を総合的に整理していく。

税収増の取組みと梅ヶ谷トンネル開通による経済効果や取組みについて

Q 税収増につながる産業が振興発展するための施策は。

A 令和6年3月に日の出町商工観光振興計画を策定。今後は推進委員会の協議を参考とし、産業振興に効果的な事業の在り方について検討を行っていく。

Q トンネル開通における経済効果の向上や地域振興につながる具体的な戦略は。

A 観光施設への誘客から始め、今後、肝要方面の関連施設と連携し、情報発信を行っていく。



ユネスコ世界遺産「下平井の鳳凰の舞」



川脇 敏徳  
かわわき としのり

教育関係全般について

Q 教育委員会の独自性・特色ある取組は。

A 日の出町の豊かな自然、伝統文化、人と人の絆が醸成された地域コミュニティなどの魅力を教育資源として学習に取り入れ、地域をフィールドとした教育活動を推進。

Q 教員の長時間労働問題の解決とサポートは。

A スクールサポートスタッフや副校長補佐などの専門スタッフ、学校支援員や部活動支援員などの外部人材を配置し、教員の負担軽減を図っている。

Q 生成AI等の進化に伴う教育指導概要の転換期について。

A 現在、37自治体52校のパイロット校での取組。検証での成果課題を注視する。学びの基盤となるリアルな実体験とデジタルとのバランスや調和に一層留意する。

Q 次世代の子どもたちの可能性を育む取組は。

A 「人は家庭で育ち、学校で学び、地域で伸びる」3者が一体で成長を見守る。

議会・議員の調査権限、開示請求権について

Q 調査権について。

A 地方自治法第98・100条による検閲、検査権、調査権がある。法令で定める対象外もあるが、できる限りの資料請求等に応じている。

Q 第三セクター等の経営健全化推進における議会のチェック機能は。

A 事業報告、決算報告及び事業計画について町長報告を行い、議会の理解を得るよう努めている。

